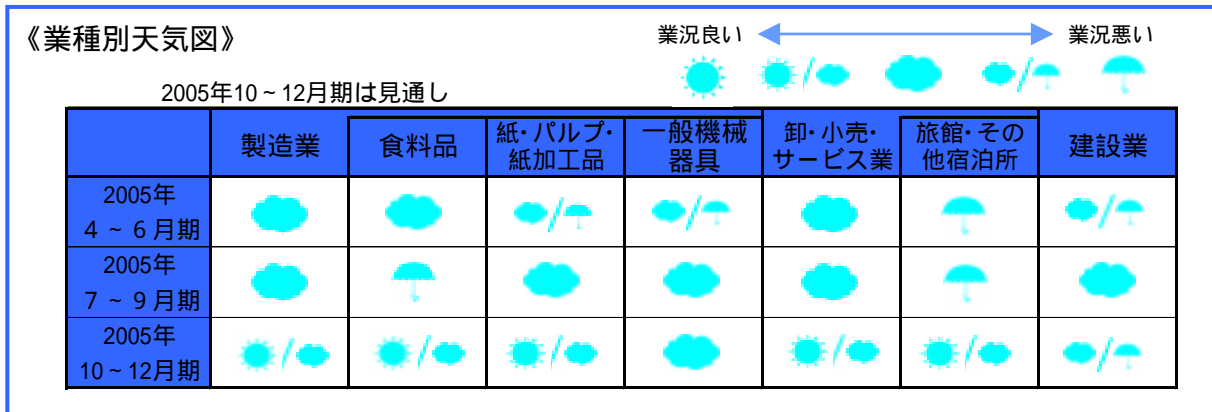
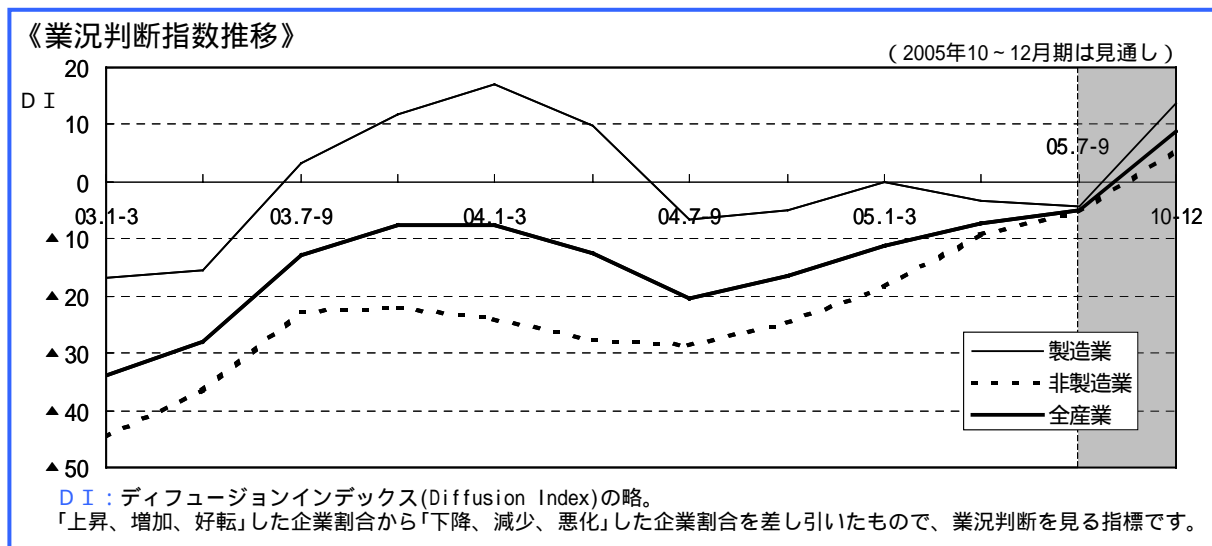


業況概要(自社)

～ 製造業はわずかに低下、非製造業は引続き改善傾向～

静岡県東部地域における2005年7～9月期の業況判断DIは、全産業で▲5.0(前期▲7.1)となり、全体では緩やかながら引続き改善傾向にある。業種別では、製造業は▲4.3(同▲3.4)とわずかに低下した。一方非製造業では、卸・小売・サービス業は▲3.9(同▲2.8)とわずかに低下したが、建設業が▲8.9(前期▲25.0)と大きく改善したため、全体では▲5.4(同▲9.3)と引続き改善し、製造業とほとんど同レベルのDI判断となっている。



《調査の概要》

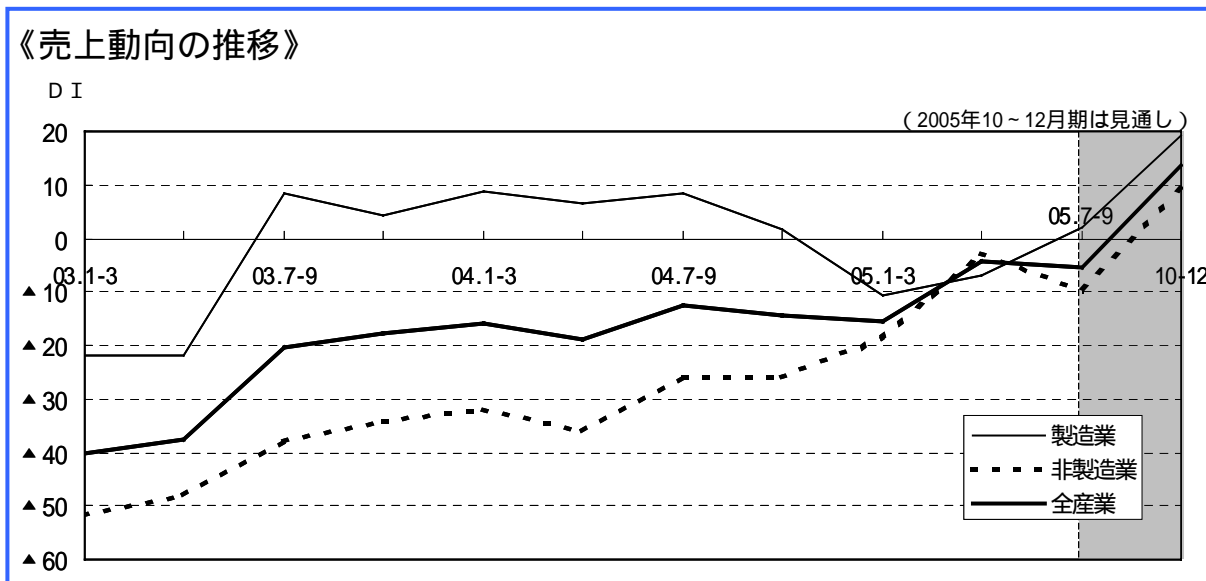
- | | |
|--|---|
| <p>1. 調査目的
静岡県東部地域(富士川以东)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握</p> <p>2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 840社
回答数244(回答率29.0%)
業種別企業数は4ページ下段図表を参照</p> | <p>3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査</p> <p>4. 調査対象期間
実績:2005年7～9月期
見通し:2005年10～12月期</p> <p>5. 調査時点
2005年9月</p> |
|--|---|

売上動向

製造業は若干の改善でプラス判断へ、非製造業はやや低下

2005年7～9月期の全産業の売上動向DIは▲5.3(前期▲4.2)と、前期と比較してわずかながら低下した。製造業は2.1(同▲6.8)で、食料品は引続き低下したが、それ以外の業種で上昇したことから若干改善され、04年10～12月期以来のプラス判断に転じた。一方、非製造業は▲10.1(同▲2.7)とやや低下した。旅館・その他宿泊所は横ばいで推移したが、その他の小売・サービス業等や建設業で低下がみられ、結果として全体のDIも押し下げられた。

2005年10～12月期(見通し)は、全産業で13.6となり、大幅な改善を見込んでいる。製造業で19.1、非製造業でも10.1といずれも大幅な上昇を予想しており、来期への強い期待感がみられる。

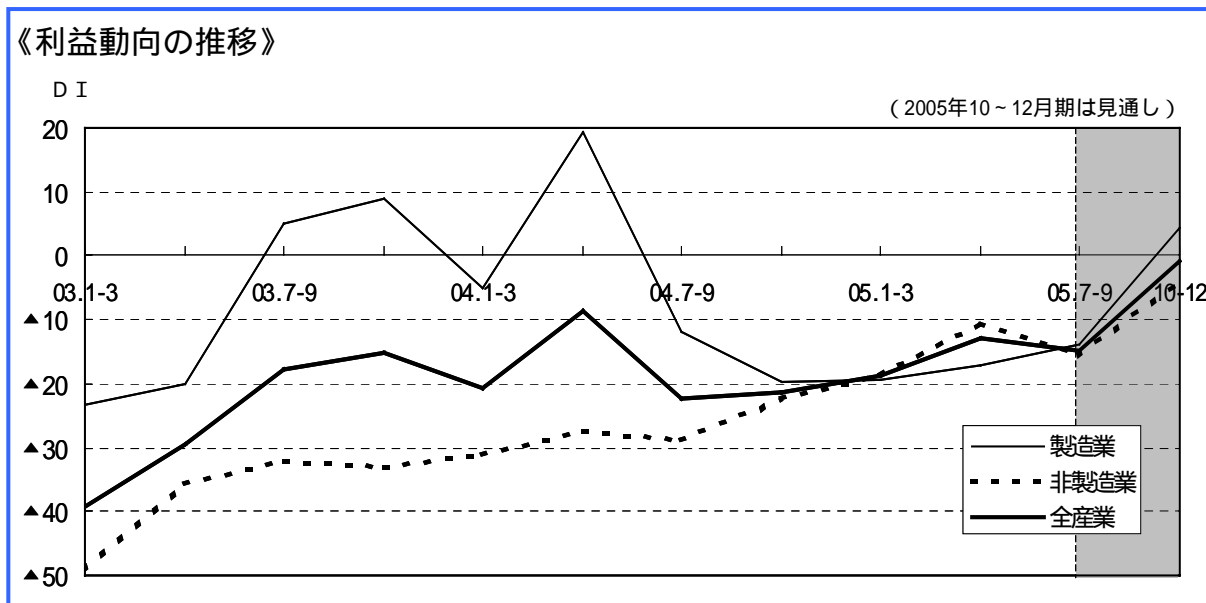


利益動向

製造業はわずかに改善、非製造業は一転して若干の低下傾向

2005年7～9月期の全産業の利益動向DIは▲14.9(前期▲13.0)で、前期まで続けてきた緩やかな改善から、わずかながら低下傾向に転じた。製造業はパルプ・紙・紙加工品が大幅なプラス判断となった影響で、▲14.0(同▲17.0)とわずかに改善となった。一方、非製造業はその他小売・サービス業等で判断がやや低下したことから、▲15.4(同▲10.7)と一転して若干の低下傾向に転じた。

2005年10～12月期(見通し)は全産業で▲0.8となり、売上動向と同様、来期への強い期待感がみられる。うち製造業では4.3と、04年4～6月期以来のプラス転換が見込まれている。



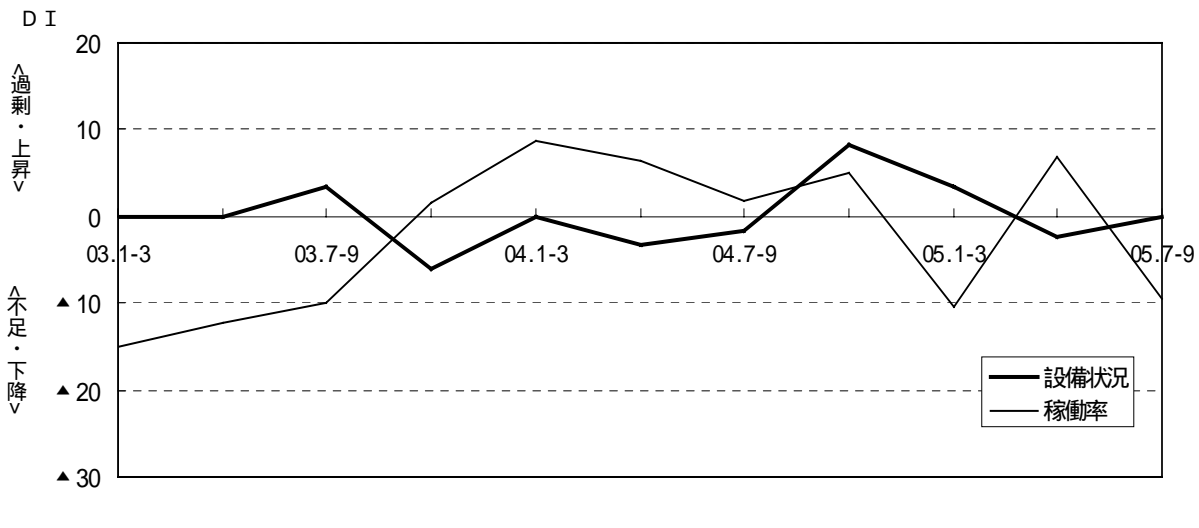
**設備状況・稼働率
(製造業)**

設備は「適正」状態、稼働率は大幅低下で再び「下降」

2005年7～9月期の設備状況DIは0.0(前期▲2.3)となり、前期の「不足」から「適正」の判断となった。食料品や一般機械器具は「不足」から「過剰」に転じたが、金属製品では「不足」感が強まり、パルプ・紙・紙加工品も「過剰」感が緩和されている。

一方、今期の稼働率DIは▲9.6(同6.8)で、前期から一転して大幅に低下し、再び「下降」判断に転じた。食料品、一般機械器具で「下降」に転じた他、金属製品も「上昇」から「適正」状態まで低下している。

《設備状況・稼働率の推移》



**在庫状況
(製造業)**

DIは若干上昇、ただし全体の約4分の3の企業は「適正」と判断

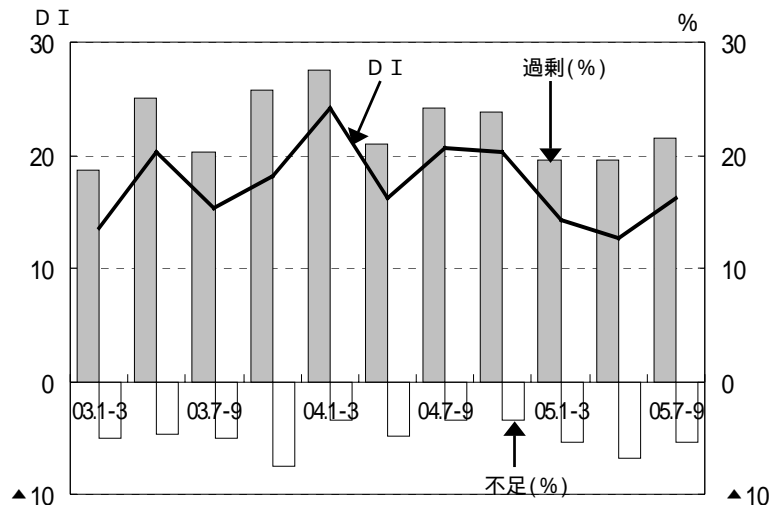
2005年7～9月期の在庫状況(製造業)は、引き続き回答企業全体の約4分の3が「適正」と判断した。また、「過剰」と回答した企業の比率は若干上昇、同じく「不足」の比率は若干低下した。この結果、在庫状況DIは14.6(前期12.6)と若干上昇し、再び在庫が拡大する懸念が出ている。業種別では、前期「不足」だった食料品でDIが上昇し「適正」=ゼロ状態となった。その他の業種はいずれも「過剰」となっており、パルプ・紙・紙加工品、一般機械器具、その他製造業ではそれぞれ過剰感がやや高まっている。

《在庫状況》

	(前期) 2005年 4～6月期	(今期) 2005年 7～9月期
過剰	19.6%	21.5%
適正	73.6%	73.1%
不足	6.9%	5.4%
DI	12.6	14.6

(%は回答企業の比率)

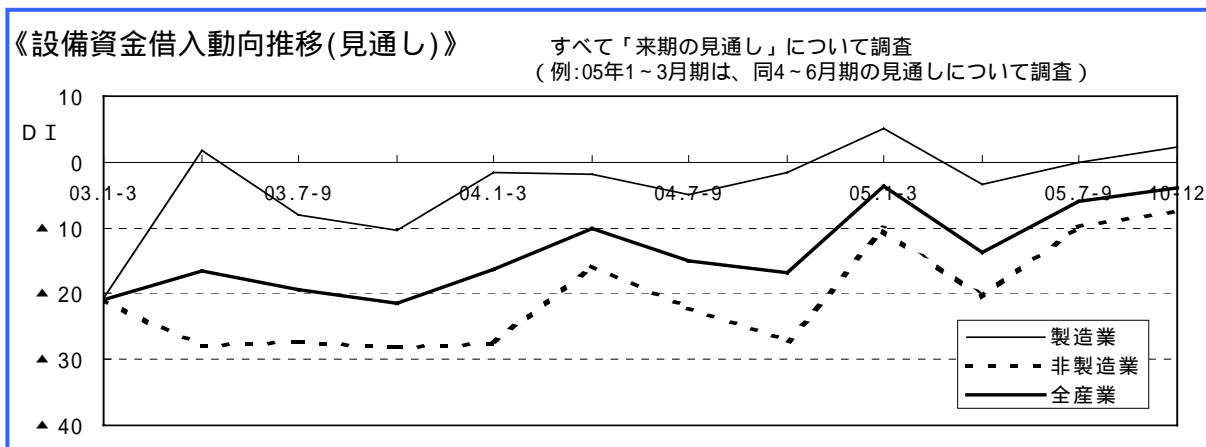
《在庫状況の推移》



設備資金借入
動向(来期)

製造業は借入金の増加傾向へ、非製造業も借入金抑制の動き弱まる

2005年10～12月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲3.8(前期▲6.1)で、DIはマイナス(借入金の減少傾向)であるが引き続き上昇しており、借入金抑制の動きは緩和されているとみられる。製造業は2.2(同0.0)となり、借入金の増加傾向に転じた。パルプ・紙・紙加工品で大幅に上昇しているが、金属製品や一般機械器具では低下している。一方、非製造業も▲7.6(同▲9.8)とマイナスであるものの、借入金抑制の動きは弱まっている。旅館・その他宿泊所でDIがやや上昇している。



経営上の問題点

「原材料・仕入商品の値上がり」の指摘がさらに増加

上位8項目の内容はすべて前期と同じであるが、「原材料・仕入商品の値上がり」が引き続き回答企業数、割合とも上昇し、「人材の育成」と並んで多くなっている。業種別では、製造業でもっとも多い「原材料・仕入商品の値上がり」の回答企業数がさらに増加し、原油など原材料価格の高騰による負担が重いことがうかがわれる。一方、卸・小売・サービス業では「受注・売上の停滞・減少」「人材の育成」「生産・販売能力の不足」が引き続き上位を占め、建設業は引き続き「受注・売上の停滞・減少」と「過当競争・製品安」に回答が集中している。

《経営上の問題点(上位8項目)》

	05年1～3月期		05年4～6月期		05年7～9月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 受注・売上の停滞・減少	78	54.5	125	52.7	129	52.9	
2. 過当競争・製品安	60	42.0	99	41.8	99	40.6	
3. 人材の育成	53	37.1	87	36.7	87	35.7	
3. 原材料・仕入商品の値上がり	44	30.8	77	32.5	87	35.7	
5. 生産・販売能力の不足	33	23.1	66	27.8	59	24.2	
6. 従業員の高齢化	32	22.4	48	20.3	53	21.7	
7. 人件費の増加	23	16.1	33	13.9	38	15.6	
8. その他経費の増加	20	14.0	26	11.0	37	15.2	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	16	▲37.5	▲31.3	12.5	▲43.8	0.0	▲6.7
パルプ・紙・紙加工品	11	▲18.2	18.2	18.2	▲9.1	45.5	30.0
金属製品	17	23.5	▲25.0	▲17.6	0.0	5.9	0.0
一般機械器具	13	7.7	▲15.4	8.3	▲15.4	25.0	▲7.7
その他製造業	37	13.5	▲10.8	▲5.4	2.7	16.2	2.8
製造業計	94	2.1	▲14.0	0.0	▲9.6	16.1	2.2
旅館・その他宿泊所	17	▲29.4	▲17.6	-	-	-	▲5.9
その他小売・サービス業等	88	4.6	▲5.7	-	-	-	1.2
卸・小売・サービス業計	105	▲1.0	▲7.7	-	-	-	0.0
建設業計	45	▲31.1	▲33.3	-	-	-	▲25.0
非製造業計	150	▲10.1	▲15.4	-	-	-	▲7.6